

年頭のご挨拶

2012年年頭にあたり、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

旧年中は当協議会の事業活動について格別のご高配を賜り、誠にありがとうございました。本年も引き続きよろしくお願い申し上げます。

昨年は3月に発生した東北大震災をはじめとした、地震や台風などによる自然災害が多発した年でした。震災後には直接の被害に加え電力や物資の不足が発生し、被災周辺では大変な混乱をきたしました。被災された皆様へ心よりお見舞いを申し上げますと共に、早い復興を祈念いたします。

世界的には、中東諸国をはじめとする政権の変化や、欧州に端を発する経済不安、TPP 交渉開始など大きな動きがいくつかありました。これまで以上に変化への対応が生き残りの条件になってくるものと思われます。

環境面に目を向けますと気候変動枠組み条約第17回締約国会議（COP17）が開催され京都議定書以降の温暖化ガスの排出量への枠組みについて話し合われました。具体的な取組については各国の思惑が絡み足並みが揃わないのが現状ですが、地球環境を保全しなければいけないということについては各国とも異論のないところだと思われます。経済と環境の調和が今後の課題ではないでしょうか。

このような状況の中で、エネルギーを大事に使うことや限りある資源を有効に使うことは、社会に対しての貢献であり責任ではないかと考えています。

私ども牛乳容器環境協議会（容環協）は乳業メーカーと紙パックメーカーが主体となり紙パックのリサイクルを推進するため、1992年に設立されました。これまで、市民団体である「全国パック牛乳パックの再利用を考える連絡会（全国パック連）」様と共に、リサイクル促進地域会議、リサイクル講習会、小学校への出前授業、エコライフフェアやエコプロダクツ展への出展、DVDや各種パンフレットの作成・配布による、市民の皆様への情報提供や、牛乳パック回収ボックスの設置のお願いなどによって紙パックの回収促進を行なって参りました。おかげさまで紙パックの回収率は継続した上昇トレンドとなり、設立当初と比較し2倍以上とすることが出来ました。

しかしここ数年、回収率の向上が鈍化してきていることもあり、2007年に作成した「プラン2010」の最終年の集計結果においては、目標としてきた回収率50%は未達ということになりました。それを踏まえ、「プラン2015」として活動計画を作成し直し、これまでの活動内容を見直すと共に、効果の得られるように取組を進めて行こうと考えております。



全国牛乳容器環境協議会
会長 中島賢治

もともと紙パックは軽量で丈夫な環境にやさしい素材と言われています。北欧や北米の針葉樹からとった非常に良質のバージンパルプを使用していることから、リサイクルして出来るトイレットペーパーやティッシュペーパーも上質なものとなります。また、リサイクルをすることで木から新たに紙を作るよりもエネルギーの節約にもつながります。

紙パックの回収率向上には、市民の皆様のご協力が不可欠です。お飲みになった紙パックは「洗って、開いて、乾かして」、また他の紙類とは分別して「紙パック」として回収にご協力いただきますようお願い申し上げます。

おかげさまで容環協は今年で20周年を迎えることになります。これまでの活動に対し、いただきました様々なご支援に対し厚く御礼を申し上げます。今後もこれまで以上のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

平成 24 年 1 月
全国牛乳容器環境協議会
会長 中寫賢治